

東海北陸厚生局長 殿

国立大学法人 富山大学附属病院長

塚田 一博

国立大学法人 富山大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成24年度の業務に関して報告します。

記

- 1. 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3. 高度の医療に関する研修の実績 

研修医の人数	140人
--------	------

 (注)前年度の研修医の実績を記入すること
- 4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	316人	37人	338.1人	看護補助者	30人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	13人	1人	13.8人	理学療法士	5人	臨床検査技師	35人
薬剤師	30人	0人	30.0人	作業療法士	3人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	6人	その他	0人
助産師	31人	0人	31.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	573人	14人	583.8人	臨床工学士	12人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄養士	0人	その他の技術員	40人
歯科衛生士	2人	0人	2.0人	歯科技工士	0人	事務職員	113人
管理栄養士	7人	1人	7.8人	診療放射線技師	31人	その他の職員	0人

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3. 「合計」の欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。  
 それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計数を記入すること。

8. 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たりの平均入院患者数	437.5人	8.1人	445.6人
1日当たりの平均外来患者数	1,194.8人	45.2人	1,240.0人
1日当たりの平均調剤数			1,065.4剤

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱い患者数

先進医療の種類	取扱い患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	心房細動のカテーテル・アブレーション	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要			
抗不整脈薬が無効な心房細動の根治術として高周波エネルギーを用いたアブレーションを行っている。			
医療技術名	心不全・虚血性心疾患に対する温和療法	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要			
薬剤治療抵抗性の心不全や狭心症例に対して、全身の温熱療法(和温療法)により心機能改善・QOLや運動耐容能改善を図る。			
医療技術名	慢性血栓塞栓性肺高血圧に対するカテーテル治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
慢性血栓塞栓性肺高血圧は、薬物治療に抵抗性であり、閉塞した肺動脈をバルーンで拡張することにより肺高血圧の軽減を図る。			
医療技術名	悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
放射性同位元素および色素を併用して、センチネルリンパ節生検を行っている。			
医療技術名	PET(ボジトロン断層法)	取扱患者数	1226人
当該医療技術の概要			
陽電子検出を利用したコンピューター断層撮影技術である。X線CTが主に組織の形態を観察するための検査法であるのに対して、生体の機能を観察することに特化した検査法である。腫瘍組織における糖代謝レベルの上昇を検出することにより癌の診断に利用する。			
医療技術名	直線加速器定位放射線治療	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要			
定位放射線照射とは病巣に対し多方向から放射線を集中させる照射方法です。脳定位放射線治療,肺定位放射線治療を実施している。			
医療技術名	強度変調放射線治療(IMRT)	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要			
強度変調放射線治療とは腫瘍の形状に合わせた線量分布を形成でき、正常組織の被ばく線量をより低減できる放射線治療の照射技術である。			
医療技術名	頸部頸動脈血管形成・ステント術:CAS	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要			
脳血管内治療による頸動脈狭窄症に対する頸動脈形成術である。			

医療技術名	ステント併用脳動脈瘤塞栓術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
頸部の広い動脈瘤に対する頭蓋内ステント(Enterprise VRD)を使用したコイル塞栓術。			
医療技術名	巨大脳動脈瘤治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
通常治療が困難な巨大脳動脈瘤に対する外科手術、脳血管内治療を複合させた治療。			
医療技術名	脳動静脈奇形塞栓術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
脳動静脈奇形摘出術前に行う塞栓術。			
医療技術名	硬膜動静脈瘻に対する脳血管内手術	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要			
硬膜動静脈瘻料に対する経動脈的、あるいは静脈的塞栓術。			
医療技術名	脳深部刺激療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
パーキンソン病に対して脳深部刺激を行う定位脳手術(機能外科手術)。			
医療技術名	経鼻的下垂体腫瘍摘出術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
鼻腔経路で神経内視鏡を使用し下垂体腫瘍を摘出する。			
医療技術名	神経内視鏡による水頭症手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
神経内視鏡を使用した水頭症に対する脳室穿破術。			
医療技術名	ナビゲーション支援による脳腫瘍手術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
MRIを基に構成した術中ナビゲーションシステムを使用した脳腫瘍の摘出手術。			
医療技術名	ステント併用脳動脈瘤塞栓術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
頸部の広い動脈瘤に対する頭蓋内ステント(Enterprise VRD)を使用したコイル塞栓術。			

医療技術名	巨大脳動脈瘤治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
通常治療が困難な巨大脳動脈瘤に対する外科手術、脳血管内治療を複合させた治療。			
医療技術名	脳動静脈奇形塞栓術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
脳動静脈奇形摘出術前に行う塞栓術。			
医療技術名	硬膜動静脈瘻に対する脳血管内手術	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要			
硬膜動静脈瘻料に対する経動脈的、あるいは静脈的塞栓術。			
医療技術名	脳深部刺激療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
パーキンソン病に対して脳深部刺激を行う定位脳手術(機能外科手術)。			
医療技術名	経鼻的下垂体腫瘍摘出術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
鼻腔経由で神経内視鏡を使用し下垂体腫瘍を摘出する。			
医療技術名	神経内視鏡による水頭症手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
神経内視鏡を使用した水頭症に対する脳室穿破術。			
医療技術名	ナビゲーション支援による脳腫瘍手術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
MRIを基に構成した術中ナビゲーションシステムを使用した脳腫瘍の摘出手術。			
医療技術名	パズール処理骨の自家移植による骨軟部悪性腫瘍に対する四肢温存再建術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
骨軟部悪性腫瘍組織を体外に取り出してパズール処理を行い、その自家移植により四肢を温存再建し治癒をはかる。			
医療技術名	3次元カスタムガイドによる頸椎手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
術前3D-CTデータをもとに頸椎スクリュー挿入用の立体カスタムガイドを作成。これを用いた頸椎手術により、個々の患者に適した頸椎の固定を、正確かつ安全に施行。			

医療技術名	術中ナビゲーションシステムを用いた脊椎・関節手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
フルオロスコープまたはキネマティックスを用いたナビゲーションシステムにより、正確性と安全性を兼ね備えた脊椎・関節手術の施行。			
医療技術名	3次元立体モデルによる骨関節手術プランニング	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
術前の立体モデル作成による、高度変形に対する手術シミュレーション。			
医療技術名	難治性緑内障におけるインプラント手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
難治性緑内障に対して眼圧下降を効果的に得るためにインプラント手術で眼圧下降を図る。			
医療技術名	乾燥羊膜を用いた難治性角膜疾患の治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
当院で独自に作成したヒト乾燥羊膜を用いた角膜穿孔、緑内障手術後に対し、効果的な治療をしている。			
医療技術名	近視性血管新生黄斑症に対する抗VEGF療法	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要			
強度近視に伴う血管新生黄斑症に対して抗VEGF療法を眼内注射し、より効果的な治療を行う。			
医療技術名	黄斑浮腫に対する抗VEGF療法	取扱患者数	200人
当該医療技術の概要			
強度近視に伴う血管新生黄斑症に対して抗VEGF療法を眼内注射し、より効果的な治療を行う。			
医療技術名	角膜内皮移植(DSAEK)と角膜移植	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
重症角膜疾患に対して角膜移植術を行う。症例に応じてより視力改善効果の高い角膜内皮移植術を行う。			
医療技術名	中耳加圧療法による難治性内リンパ水腫疾患治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
携帯型中耳加圧治療器Meniettならびに鼓膜マッサージ機を用いて、保存的治療に抵抗してめまい発作を反復する遅発性内リンパ水腫疾患患者の治療を行っている。			
医療技術名	hyperdry乾燥羊膜を用いた中耳手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
自家移植材料である側頭筋筋膜の代わりにhyperdry乾燥羊膜を用いて鼓室形成術を行っている。			

医療技術名	多軸血管撮影装置を用いた後腹膜腫瘍手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
多軸血管撮影装置を用いて、術中に造影CTを併用して腫瘍や血管などの位置を確認しながら手術を行っている。			
医療技術名	単孔式腹腔鏡下手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
単孔にて腹腔鏡下の後腹膜腫瘍などの手術を行っている。			
医療技術名	高線量率組織的照射 (HDR-BT)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
前立腺癌に対する小線源療法、アプリーケーターを挿入し、体内より放射線照射を行っている。			
医療技術名	強度変調放射線療法 (IMRT)	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
前立腺癌に対する対外放射線療法。周辺機器に対する線量を減らすことができ、合併症の低減につながる。			
医療技術名	顕微鏡下精索静脈瘤手術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要			
顕微鏡を用いて、精索静脈瘤手術を行っている。動脈、リンパ管を温存することにより、手術成績の向上につながる。			
医療技術名	精子機能検査	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要			
精子運動能、精子受精能などを検査。			
医療技術名	遊離組織移植による即時再建術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
口腔腫瘍切除時、欠損部位に対して遊離組織移植を行う。			
医療技術名	乾燥羊膜を用いた口蓋形成術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
口蓋部のlow surfaceに乾燥羊膜を用いて、術後の摂食痛の軽減と早期上皮化を促す。			
医療技術名	心臓MRI	取扱患者数	42人
当該医療技術の概要			
シネMRIは現在最も正確な心機能と局所壁運動の診断法であり、遅延造影MRIは現在最も正確な心筋梗塞の画像診断法である。空間分解能が高いため右室梗塞や心内膜化梗塞も明瞭に診断できる。(冠動脈病変の非侵襲的診断法に関するガイドラインJCS2009)			



医療技術名	脳3D-MRI	取扱患者数	65人
当該医療技術の概要			
<p>アルツハイマー病進行度やその他の精神疾患評価する目的で脳全体のMRIボリュームデータセットを取得し、統計解析処理することによって体積の委縮度を客観的に評価する。</p>			
医療技術名	心房細動のカテーテル・アブレーション	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要			
<p>抗不整脈薬によっても発作を抑制できない有症候性心房細動に対して、根治術として高周波エネルギーを用いたアブレーションを行っている。</p>			
医療技術名	頸部頸動脈血管形成・ステント術:CAS	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要			
<p>脳血管内治療による頸動脈狭窄症に対する頸動脈形成術である。</p>			
医療技術名	ステント併用脳動脈瘤塞栓術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要			
<p>頸部の広い動脈瘤に対する頭蓋内ステント(EntemriseVRD)を使用したコイル塞栓術。</p>			
医療技術名	巨大脳動脈瘤治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
<p>通常治療が困難な巨大脳動脈瘤に対する外科手術、脳血管内治療を複合させた治療。</p>			
医療技術名	脳動静脈奇形塞栓術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
<p>脳動静脈奇形摘出術前に行う塞栓術。</p>			
医療技術名	硬膜動静脈瘻に対する脳血管内手術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
<p>硬膜動静脈瘻に対する経動脈的、あるいは静脈的塞栓術。</p>			
医療技術名	ナビケーション用CT撮影	取扱患者数	296人
当該医療技術の概要			
<p>脳神経外科領域にて腫瘍・血管位置や危険部位の認識をサポートする目的で行われ、整形外科分野では骨に対す器具位置の表示などに応用される。この基準となるデーターをX線CT装置で撮影する。耳鼻咽喉科、口腔外科、美容外科へ適用が拡大している。</p>			
医療技術名	X線CT-Angio撮影	取扱患者数	549人
当該医療技術の概要			
<p>造影剤を急速静注したのち、動脈内の造影剤濃度が最も高くなるタイミング(動脈相)でCT撮影し、画像処理することで動脈が明確に抽出され、3D表示も可能となります。脳脈瘤、腹部大動脈瘤の診断に利用されている。</p>			

医療技術名	PET(ボジトロン断層法)	取扱患者数	1230 人
当該医療技術の概要			
<p>陽電子検出を利用したコンピューター断層撮影技術である。X線CTが主に組織の形態を観察するための検査法であるのに対して、生体の機能を観察することに特化した検査法である。腫瘍組織における糖代謝レベルの上昇を検出することにより癌の診断に利用する。</p>			
医療技術名	直線加速器定位放射線治療	取扱患者数	8 人
当該医療技術の概要			
<p>定位放射線照射とは病巣に対し多方向から放射線を集中させる照射方法です。脳定位放射線治療,肺定位放射線治療を実施している。</p>			
医療技術名	強度変調放射線治療(IMRT)	取扱患者数	25 人
当該医療技術の概要			
<p>強度変調放射線治療とは腫瘍の形状に合わせた線量分布を形成でき、正常組織の被ばく線量をより低減できる放射線治療の照射技術である。</p>			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	33 人	・膿疱性乾癬	1 人
・多発性硬化症	55 人	・広範脊柱管狭窄症	8 人
・重症筋無力症	32 人	・原発性胆汁性肝硬変	36 人
・全身性エリテマトーデス	130 人	・重症急性膵炎	人
・スモン	2 人	・特発性大腿骨頭壊死症	17 人
・再生不良性貧血	5 人	・混合性結合組織病	28 人
・サルコイドーシス	35 人	・原発性免疫不全症候群	6 人
・筋萎縮性側索硬化症	16 人	・特発性間質性肺炎	10 人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	100 人	・網膜色素変性症	59 人
・特発性血小板減少性紫斑病	14 人	・プリオン病	2 人
・結節性動脈周囲炎	17 人	・肺動脈性肺高血圧症	7 人
・潰瘍性大腸炎	103 人	・神経線維腫症	15 人
・大動脈炎症候群	12 人	・亜急性硬化性全脳炎	人
・ビュルガー病	13 人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	人
・天疱瘡	12 人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	6 人
・脊髄小脳変性症	44 人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	人
・クローン病	63 人	・副腎白質ジストロフィー	1 人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1 人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	人
・悪性関節リウマチ	20 人	・脊髄性筋萎縮症	2 人
・パーキンソン病関連疾患	177 人	・球脊髄性筋萎縮症	2 人
・アミロイドーシス	1 人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	8 人
・後縦靭帯骨化症	40 人	・肥大型心筋症	3 人
・ハンチントン病	4 人	・拘束型心筋症	人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	25 人	・ミトコンドリア病	9 人
・ウェゲナー肉芽腫症	7 人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	37 人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	人
・多系統萎縮症	22 人	・黄色靭帯骨化症	7 人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1 人	・間脳下垂体機能障害	40 人
(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。		合計	1288 人

(様式第10)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ インプラント義歯	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には業務報告を行う3年前の4月以降に健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供したものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	<input checked="checked" type="checkbox"/> 1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 <input type="checkbox"/> 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床検査部門：1ヶ月に2～4回程度開催 病理診断部門：1ヶ月に9～12回程度開催		
剖 検 の 状 況	剖検症例数	23 例	剖検率 11.3 %

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	豊かな環境における中枢神経新生を介した慢性疼痛に対する治療戦略	山崎 光章	麻酔科学	1,600,000 円	日本学術振興会
2	BMP受容体変異を伴う細胞増殖性疾患の分子基盤の解明	別府 秀幸	臨床分子病態検査学	2,500,000 円	日本学術振興会
3	クロマチンリモデリング分子ATRAX遺伝子改変マウスによる脳発達障害の分子病態解明	北島 勲	臨床分子病態検査学	3,600,000 円	日本学術振興会
4	次世代質量分析と網羅的遺伝子発現解析による消化器癌の新規バイオマーカーの研究	嶋田 裕	外科学(消化器・腫瘍・総合外科)	5,000,000 円	日本学術振興会
5	免疫寛容という立場から正常妊娠、異常妊娠を再考する	齋藤 滋	産科婦人科学	3,500,000 円	日本学術振興会
6	視床下部オレキシンを標的とした情動と糖代謝の運動的制御による糖尿病治療法の開発	笹岡 利安	病態制御薬理学	5,800,000 円	日本学術振興会
7	病理学の最新テクノロジーを応用した漢方薬の薬効・機能解析法の確立	常山 幸一	病理診断学	5,800,000 円	日本学術振興会
8	統合失調症前駆期の神経発達病態解明と生物学的早期診断法の開発	鈴木 道雄	神経精神医学	9,400,000 円	日本学術振興会
9	軟骨変性破壊の共有パスウェイを標的とした分子治療の開発	木村 友厚	整形外科・運動器病学	5,700,000 円	日本学術振興会
10	骨軟部肉腫に対する分化誘導療法の開発	金森 昌彦	人間科学1	800,000 円	日本学術振興会
11	イミノ糖によるタンパク質プロセッシングの制御と作用メカニズムの解明	足立 伊左雄	薬剤部	1,100,000 円	日本学術振興会
12	救急外来トリアージ基準確立のための情報収集システム構築に関する研究	若杉 雅浩	危機管理医学	1,000,000 円	日本学術振興会
13	メタボリックシンドロームにおける和漢薬の血管内皮機能保護作用に関する研究	嶋田 豊	和漢診療学	500,000 円	日本学術振興会
14	脂肪組織マクロファージとインターロイキン10による代謝調節に関する研究	薄井 勲	内科学(第一)	400,000 円	日本学術振興会
15	精神疾患における脳形態変化の疾患特異性に関する研究	高橋 努	神経精神科	600,000 円	日本学術振興会
16	細動波(f波)周波数解析によるガイド下心房細動手術の開発	深原 一晃	外科学(呼吸・循環・総合外科)	600,000 円	日本学術振興会
17	リンパ管新生評価系並びにリンパ節転移モデルを用いたリンパ管新生機序解明と治療応用	土岐 善紀	第一外科	400,000 円	日本学術振興会
18	脊椎靭帯骨化症における骨化形成のメカニズムの解明と治療	川口 善治	整形外科・運動器病学	700,000 円	日本学術振興会
19	II型コラーゲン異常による骨系統疾患をモデルとした変形性関節症の病態解析	松井 好人	解剖学	900,000 円	日本学術振興会
20	アルツハイマー病による全身麻酔薬作用の修飾-疾病モデルマウス海馬における検討-	廣田 弘毅	麻酔科学	700,000 円	日本学術振興会
21	経脈絡膜上腔ドラッグデリバリーの開発	林 篤志	眼科学	1,000,000 円	日本学術振興会
22	ゴーシェ病治療薬開発を指向したイミノ糖型シャペロンのデザイン合成研究	加藤 敦	薬剤部	1,300,000 円	日本学術振興会
23	血小板由来増殖因子の神経細胞死抑制およびシナプス形成促進作用に対する役割の検討	石井 陽子	病態・病理学	1,200,000 円	日本学術振興会
24	温度感受性遺伝子導入動物カハール細胞を用いた消化管間質腫瘍の悪性化機序	杉山 敏郎	内科学(第三)	900,000 円	日本学術振興会
25	ライブイメージング法を用いた間葉系幹細胞の時間・空間的解析-肝臓内ニッチの探索	高原 照美	内科学(第三)	1,100,000 円	日本学術振興会
26	心不全の心腎連関における自律神経機能の概日リズム異常に関する研究	井上 博	内科学(第二)	900,000 円	日本学術振興会
27	水疱性類天疱瘡の病態関連モノクローナル抗体の単離と新規診断法・治療法の開発	清水 忠道	皮膚科学	1,200,000 円	日本学術振興会
28	消化器癌幹細胞と微小環境との相互作用に関する治療標的マイクロRNAの探索	奥村 知之	外科学(消化器・腫瘍・総合外科)	1,100,000 円	日本学術振興会
29	口腔癌顎骨浸潤の免疫学的機序の解明と新規治療戦略の開発	野口 誠	歯科口腔外科学	1,100,000 円	日本学術振興会
30	2型糖尿病疾患感受性SNPから得られる遺伝的情報の臨床的有用性に関する検討	岩田 実	地域医療支援学	1,700,000 円	日本学術振興会
31	新たなTaq酵素を用いた迅速な感染症起因菌同定ITシステムの臨床応用	仁井見 英樹	検査部	1,500,000 円	日本学術振興会
32	活性型血小板を介した糖尿病性細小血管症の進展抑制効果を有する生薬の探索	柴原 直利	漢方診断学	900,000 円	日本学術振興会
33	心房細動の電氣的・構造的基質に対するPPAR $\gamma$ 活性化とAT-II受容体遮断の効果	西田 邦洋	第二内科	1,000,000 円	日本学術振興会
34	心房細動患者における薬剤性QT延長の新たな評価法の確立と遺伝的背景の解析	水牧 功一	臨床研究・倫理センター	2,400,000 円	日本学術振興会
35	モデルマウスを用いたIgG4関連呼吸器疾患の基礎的研究	松井 祥子	保険管理センター	1,700,000 円	日本学術振興会

36	脂肪組織の肥大化と糖エネルギー代謝異常におけるP DGFシグナルの意義の解明	和田 努	病態制御薬理学	2,100,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
37	心筋緻密化障害におけるサルコメア遺伝子変異と機能異常の網羅的解析	市田 蒔子	小児科学	1,800,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
38	表皮角化細胞における終末分化の分子機構の解明と皮膚癌に対する新規治療法の開発	牧野 輝彦	皮膚科学	1,400,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
39	炎症性サイトカイン抑制による肉腫の増殖・転移抑制	安田 剛敏	整形外科	2,700,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
40	超音波照射によるヘムオキシゲナーゼ1遺伝子発現制御と勃起不全治療への応用	渡部 明彦	腎泌尿器科学	1,800,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
41	妊娠高血圧症候群の発症予防戦略構築のための研究～産科学と疫学と免疫学の融合～	塩崎 有宏	産婦人科	1,500,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
42	切迫早産例に対する本邦独自の治療法を見直し、効率的な治療戦略を確立するための研究	米田 哲	産婦人科	2,100,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
43	ビスホスホネート性顎骨壊死におけるカルシウム作用の解明とその制御に基づく予防戦略	新井 直也	歯科口腔外科学	1,600,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
44	羊水中病原微生物の迅速同定と迅速薬剤感受性試験を用いた産科診療システムの構築	齋藤 滋	産科婦人科学	500,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
45	転写因子NF- $\kappa$ Bハイスループット検査システム構築による救急医療への応用	北島 勲	臨床分子病態検査学	1,100,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
46	遠隔虚血プレコングestionによる深部静脈血栓症に対する戦略的予防法の確立	釈永 清志	手術部	900,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
47	中枢のホスファターゼ阻害による妊娠糖尿病および仔の代謝異常の治療法の開発	笹岡 利安	病態制御薬理学	900,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
48	脊椎椎間板疾患の病態解明に立脚した新規治療法の確立	関 庄二	整形外科・運動器病学	700,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
49	ハンガー反射を利用した頭位異常の治療の研究	旭 雄士	脳神経外科	600,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
50	刺激応答性発現制御システムの開発と前立腺癌治療への応用	森井 章裕	泌尿器科	1,400,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
51	妊娠高血圧症候群とオートファジー—新視点から絨毛外栄養膜細胞浸潤不全を解明する	中島 彰俊	産科婦人科学	1,500,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
52	胎児抗原特異的制御性T細胞の重要性	島 友子	産科婦人科学	1,200,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
53	癌の悪性度を決定する遺伝子群の探索	安藤 孝将	内科学(第三)	1,600,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
54	上皮間葉転換に伴うアポトーシス制御と抗癌剤耐性機構の解析	峠 正義	集中治療部	1,300,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
55	リンパ管新生を制御する分子の同定とリンパ節転移およびリンパ浮腫の治療研究	仙田 一貴	外科学(呼吸・循環・総合外科)	1,800,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
56	流産・妊娠高血圧腎症病態解明に向けたTh17細胞/制御性T細胞の機能解析	伊藤 実香	産婦人科(エコーユニットセンター)	1,400,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
57	fMRIを用いた中枢神経における急性痛の発現機構の解明	竹村 佳記	麻酔科学	1,100,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
58	敗血症性急性肺傷害に対するHDAC阻害剤の効果に関する研究	青木 優太	手術部	1,900,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
59	患児由来羊膜の口唇口蓋裂治療への応用	津野 宏彰	歯科口腔外科	1,300,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
60	未成熟ミエロイド系細胞を標的とした口腔癌に対する新たな免疫療法の開発	富原 圭	歯科口腔外科	1,200,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
61	マクロファージの酸素センシング機構の糖尿病発症における役割	仙田 聡子	第一内科	2,100,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
62	精神病エピソードの顕在発症と脳形態変化の関連に関する研究	中村 主計	神経精神科	1,400,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会
63	頭部垂直運動における前庭適応性変化に関する中枢制御部位の解明に関する研究	伏木 宏彰	耳鼻咽喉科	2,400,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	日本学術振興会

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合には「委」に「✓」をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題 命	発表者氏名	所 属 部 門
1	J. Diabetes Investig., 3: 331-336, 2012.	Visceral adipose tissue level, as estimated by the bioimpedance analysis method, is associated with impaired lung function.	猪又 峰彦	第一内科
2	Diabetes Care, 35: 1763-1770, 2012.	Genetic risk score constructed using 14 susceptibility alleles for type 2 diabetes is associated with the early onset of diabetes and may predict the future requirement of insulin injections among Japanese individuals.	岩田 実	第一内科
3	Mod. Rheumatol., 22: 31-39, 2012.	Respiratory involvement in IgG4-related Mikulicz's disease.	松井 祥子	第一内科
4	Oncol. Rep., 27: 1726-1732, 2012.	SRT1720, a SIRT1 activator, promotes tumor cell migration, and lung metastasis of breast cancer in mice.	鈴木 健介	第一内科
5	Age Ageing. 42: 409-410, 2013.	Cytophagic histiocytic panniculitis in a 74-year-old man.	朴木 博幸	第一内科
6	Heart Rhythm, 9: 249-255, 2012.	Vagal activity modulates spontaneous augmentation of J-wave elevation in patients with idiopathic ventricular fibrillation.	水牧 功一	臨床研究・倫理センター
7	J. Card. Fail., 18: 769-775, 2012.	Effect of adaptive servoventilation on muscle sympathetic nerve activity in patients with chronic heart failure and central sleep apnea.	城宝 秀司	第二内科
8	Circ. Arrhythm. Electrophysiol., 5: 1168-1175, 2012.	Atrial fibrillation-associated remodeling does not promote atrial thrombus formation in canine models.	西田 邦洋	第二内科
9	Gastric Cancer, 15: 427-432, 2012.	Efficacy of weekly paclitaxel in patients with advanced gastric cancer refractory to docetaxel-based chemotherapy.	安藤 孝将	第三内科
10	World J. Gastrointest. Endosc., 4: 323-327, 2012.	A study of the changes in the cause of peptic ulcer bleeding.	藤波 斗	第三内科
11	Anticancer Res., 32: 2545-2550, 2012.	Preventive effect of traditional Japanese medicine on neurotoxicity of FOLFOX for metastatic colorectal cancer: a multicenter retrospective study.	細川 歩	第三内科
12	Cell Transplant., 21: 453-464, 2012.	Matrix metalloproteinase-9 contributes to the mobilization of bone marrow cells in the injured liver.	河合 健吾	第三内科
13	Gastric Cancer, 15: 382-388, 2012.	Identification of gastric cancer risk markers that are informative in individuals with past H. pylori infection.	南條 宗八	第三内科
14	Gastroenterol. Res. Pract., 2012: Article ID 640401, 2012.	Irinotecan plus mitomycin C as second-line chemotherapy for advanced gastric cancer resistant to fluoropyrimidine and Cisplatin: a retrospective study.	小川 浩平	第三内科
15	日本門脈圧亢進症学会雑誌, 18: 40-44, 2012.	脾摘術を施行しインターフェロンを導入したC型肝硬変7症例の検討.	田尻 和人	第三内科
16	医学と薬学, 68: 249-252, 2012.	sorafenib投与後にRFAを施行した進行肝細胞癌の3症例.	田尻 和人	第三内科
17	ライフ・サイエンス, 32: 569-572, 2012.	消化管機能を制御するTRPファミリー——TRPV2, V4を中心に——. 特集: 消化器疾患の病態生理.	三原 弘	第三内科
18	Therapeutic Res., 33: 630-635, 2012.	膵酵素トリプシンにより食道上皮伸展受容体TRPV4イオンチャネル感受性が亢進する.	三原 弘	第三内科
19	日本内科学会雑誌, 101: 1112-1116, 2012.	第1回腹部救急診療トレーニングコース(AbdEMeT)の概要と評価結果.	三原 弘	第三内科
20	ISRN Dermatol., 2012: 158598, 2012.	Effectiveness of keishibukuryogan on chronic-stage lichenification associated with atopic dermatitis.	三澤 恵	皮膚科

21	Br. J. Dermatol., 166: 1376-1378, 2012.	Blaschkoid distribution of cylindromas in a germline CYLD mutation carrier.	古市 恵	皮膚科
22	J. Dermatol., 39: 87-89, 2012.	Novel mutation of the KRT 10 gene in a Japanese patient with epidermolytic hyperkeratosis.	牧野 輝彦	皮膚科
23	Clin. Cosmet. Investig. Dermatol., 5: 141-146, 2012.	Maintenance of remission with low dose olopatadine hydrochloride for itch in well-controlled chronic urticaria.	牧野 輝彦	皮膚科
24	熱傷, 38: 54-59, 2012.	当科における分層皮膚採皮創のドレッシングの工夫.	松井 恒太郎	皮膚科
25	Pediatr. Allergy Immunol., 23: 488-493, 2012.	Clinical features and outcome of X-linked lymphoproliferative syndrome type1 (SAP deficiency) in Japan identified by the combination of flow cytometric assay and genetic analysis.	金兼 弘和	小児科
26	Gene, 506: 146-149, 2012.	A de novo interstitial deletion of 8p11.2 including ANK1 identified in a patient with spherocytosis, psychomotor developmental delay, and distinctive facial features.	宮 一志	小児科
27	内科, 109: 1037-1038, 2012.	知っておきたい内科症候群 Barth症候群.	市田 露子	小児科
28	日本小児科学会誌, 116: 1554-1557, 2012.	新生児・乳児へのビタミンK予防投与に関する保護者の意識調査.	宮 一志	小児科
29	Psychiatry Res. Neuroimaging, 202: 233-238, 2012.	Reduced white matter fractional anisotropy and clinical symptoms in schizophrenia: A voxel-based diffusion tensor imaging study.	中村 主計	神経精神科
30	J. Psychopharmacol., 26: 1283-1284, 2012.	Serotonin 1A receptors in the action of antipsychotic drugs.	住吉 太幹	神経精神科
31	Psychiatry Res. Neuroimaging, 202: 84-87, 2012.	Longitudinal MRI study of the pituitary volume in chronic schizophrenia: a preliminary report.	高橋 努	神経精神科
32	Synapse, 66: 408-417, 2012.	Neonatal MK-801 treatment suppresses stress-induced lactate metabolism in the medial prefrontal cortex of adult rats: Role of 5-HT1A receptors.	上原 隆	神経精神科
33	ISRN Psychiatry, 2012: Article ID 947149, 2012.	T-817MA, but Not Haloperidol and Risperidone, Restores Parvalbumin-Positive $\gamma$ -Aminobutyric Acid Neurons in the Prefrontal Cortex and Hippocampus of Rats Transiently Exposed to MK-801 at the Neonatal Period.	上原 隆	神経精神科
34	J Psychiatr Res., 46: 622-629, 2012.	T-817MA, a novel neurotrophic agent, ameliorates loss of GABAergic parvalbumin-positive neurons and sensorimotor gating deficits in rats transiently exposed to MK-801 in the neonatal period.	上原 隆	神経精神科
35	内観研究, 18: 51-62, 2012.	内観法による怒りの変化—STAXIを用いた検討.	古市 厚志	神経精神科
36	BRAIN and NERVE, 64: 1341-1345, 2012.	富山県内の精神科医における抗NMDA受容体脳炎の認知度調査.	田口 芳治	神経内科
37	臨床放射線, 57: 104-113, 2012.	肺血流SPECT/CTにおける肺野末梢の血流低下についての検討.	米山 達也	放射線科
38	癌の臨床, 58: 301-306, 2012.	実地臨床における食道癌に対する根治的化学放射線療法の治療成績.	小川 浩平	第三内科
39	Gen Thorac Cardiovasc Surg., 60:785-791, 2012	Management of pulmonary venous obstruction	芳村直樹	第一外科
40	日本呼吸器外科学会雑誌, 26: 2-6, 2012.	幼児以下の先天性肺嚢胞性疾患に対する治療.	本間 崇浩	第一外科
41	Anticancer Res., 32: 5507-5514, 2012.	Expression Analysis of iPS Cell - Inductive Genes in Esophageal Squamous Cell Carcinoma by Tissue Microarray.	嶋田 裕	第二外科



42	Breast Cancer, 2012 Apr 17.	Prognostic significance of NANOG and KLF4 for breast cancer.	長田 拓哉	第二外科
43	Oncol. Rep., 27: 1741-1747, 2012.	Prognostic significance of aquaporins in human biliary tract carcinoma.	関根 慎一	第二外科
44	Anticancer Res., 32: 3211-3218, 2012.	Establishment and characterization of a new human gallbladder carcinoma cell line.	関根 慎一	第二外科
45	脳卒中の外科, 40: 77-82, 2012.	もやもや病の病態, 診断と治療: 最近の知見と今後の課題.	黒田 敏	脳神経外科
46	Spine, 37: 1983-1988, 2012.	Development of a new technique for pedicle screw and Magerl screw insertion using a 3D image guide.	川口 善治	整形外科
47	Asian Spine J., 6: 105-114, 2012.	Minimum 10-year follow-up study of anterior lumbar interbody fusion for degenerative spondylolisthesis: progressive pattern of the adjacent disc	金森 昌彦	整形外科
48	J.Exp. Clin. Cancer Res., 31: 100-107, 2012.	Array-based comparative genomic hybridization for genomic-wide screening of DNA copy number alterations in aggressive bone tumors.	金森 昌彦	整形外科
49	中部リウマチ, 41: 56-57, 2012.	TNF阻害療法下におけるRA荷重関節の変化.	松下 功	リハビリテーション部
50	中部整災誌, 55: 1197-1198, 2012.	脊椎手術後の早期再手術例の頻度と原因の検討.	安田 剛敏	整形外科
51	整形外科, 63: 1221-1225, 2012.	上位腰椎椎間板ヘルニアの発症要因と臨床像.	安田 剛敏	整形外科
52	日本人工関節学会誌, 42: 691-692, 2012.	TKAにおける屈曲ギャップバランスの術後経時的変化～術中の屈曲ギャップと術後上顎軸撮影での屈曲位バランスとの比較～.	下条 竜一	整形外科
53	肩関節, 36: 677-680, 2012.	肩甲下筋腱断裂の術前MRIにおける評価.	杉森 一仁	整形外科
54	Am. J. Physiol. Endocrinol. Metab., 303: E445-E456, 2012.	Central versus peripheral impact of estradiol on the impaired glucose metabolism in ovariectomized mice on a high-fat diet.	米澤 理可	産科婦人科
55	産婦人科の実際, 61: 783-789, 2012.	切迫早産における妊娠36週までの長期tocolysis (maintenance tocolysis) が有効と考えられる症例に関する検討.	米田 哲	産科婦人科
56	産婦人科漢方研究のあゆみ, 29: 81-85, 2012.	末梢血NK活性高値を示す不妊症・習慣流産患者に対する漢方療法併用の効果.	米澤 理可	産科婦人科
57	Retina, 32, 2: 308-313, 2012.	Usefulness of Indocyanine green angiography to depict the distant retinal vascular anomalies associated with branch retinal vein occlusion causing serous macular detachment.	上田 朋子	眼科
58	J. Ophthalmol., 2012: Article ID 154659, 2012.	One-year results of photodynamic therapy combined with intravitreal ranibizumab for exudative age-related macular degeneration.	中村 友子	眼科
59	Clin. Ophthalmol., 6: 1191-1194, 2012.	Near-infrared fundus autofluorescence-visualized melanin in the choroidal abnormalities of neurofibromatosis type 1.	コンソルボ 上田 朋子	眼科
60	眼科手術, 25: 383-386, 2012.	アダプティブオプティクス眼底カメラによる視細胞の観察.	林 篤志	眼科
61	日本眼科学会雑誌, 116: 1025-1027, 2012.	黄斑上膜と脈絡膜厚に関する最近の知見.	林 篤志	眼科
62	耳鼻臨床(補), 134: 1-7, 2012.	耳鼻咽喉科診療に適した電子カルテシステムの開発に関する研究.	中川 肇	耳鼻咽喉科
63	耳鼻臨床(補), 134: 8-13, 2012.	電子カルテと連携した聴覚検査ファイリングシステムの開発～3年間の稼働状況と今後の課題～.	武田 精一	耳鼻咽喉科
64	耳鼻臨床(補), 134: 18-27, 2012.	一側前庭機能障害の重心動揺検査—左右方向の特徴の再検討—.	浅井 正嗣	耳鼻咽喉科

65	耳鼻臨床(補), 134: 28-33, 2012.	可動耳石・半規管モデル内蔵頭部実態模型による頭位治療時の浮遊耳石の検討.	將積日出夫	耳鼻咽喉科
66	耳鼻臨床(補), 134: 44-46, 2012.	当科におけるTRT治療成績.	藤坂実千郎	耳鼻咽喉科
67	耳鼻臨床(補), 134: 96-100, 2012.	再発頭頸部癌に対するサイバーナイフ治療における重篤な合併症の経験.	石田正幸	耳鼻咽喉科
68	耳展, 55: 115-118, 2012.	涙道内視鏡を併用した鼻内視鏡下涙嚢鼻腔吻合術(DCR).	藤坂実千郎	耳鼻咽喉科
69	Reprod. Med. Biol., 11: 117-121, 2012.	Testicular volume discrepancy is associated with decreased semen quality in infertile Japanese males with varicoceles.	小宮 颯	泌尿器科
70	Reprod. Med. Biol., 11: 207-211, 2012.	Severe oligozoospermia in a patient with myxedema coma.	小宮 颯	泌尿器科
71	J. Laparoendosc. Adv. Surg. Tech. A., 22: 168-172, 2012.	Selective renal parenchymal clamping in retroperitoneal partial nephrectomy.	野崎哲夫	泌尿器科
72	Surg. Innov., 19: 263-267, 2012.	Laparoscopic radical nephrectomy under near real-time three-dimensional surgical navigation with C-arm cone beam computed tomography.	野崎哲夫	泌尿器科
73	Surg. Prac., 16: 103-108, 2012.	A novel technique for retroperitoneoscopic nephroureterectomy for patients with huge hydronephrosis.	野崎哲夫	泌尿器科
74	Curr. Urol., 6: 99-101, 2012.	Use of the laparoscope holder for liver retraction during urological laparoscopic surgery.	野崎哲夫	泌尿器科
75	Surg. Prac., 16: 154-159, 2012.	Results of unilateral adrenalectomy in subclinical Cushing's syndrome due to adrenocorticotropic hormone-independent macronodular adrenal hyperplasia.	野崎哲夫	泌尿器科
76	Gene Ther., 19: 219-227, 2012.	Regulation of gene expression in prostate cancer cells with an artificially constructed promoter responsive to radiation.	森井章裕	泌尿器科
77	臨床婦人科産科, 66: 43-49, 2012.	『今月の臨床 ワンランク上の漢方療法』II.漢方処方の実際2.2)男性不妊.	小宮 颯	泌尿器科
78	日本医師会雑誌, 141: 1236-1240, 2012.	【男性サイドからみる生殖医療の最前線】精子の数・質の向上を求めて—精索静脈瘤の治療.	小宮 颯	泌尿器科
79	泌尿器外科, 25: 1679-1682, 2012.	局所前立腺癌に対する高線量率組織内照射の治療成績.	藤内靖喜	泌尿器科
80	腎泌尿予防医誌, 20: 67-69, 2012.	腎腫瘍に対する腎摘除術および腎部分切除術後の腎機能の推移—eGFRを用いた検討—.	野崎哲夫	泌尿器科
81	日本老年泌尿器科学会誌, 25: 101, 2012.	高齢者限局性前立腺癌患者に対する強度変調放射線療法の臨床的検討.	野崎哲夫	泌尿器科
82	日本性機能学会誌, 27: 1-6, 2012.	加齢男性性腺機能低下症候群におけるアンドロゲン補充療法の性機能症状に対する効果.	渡部明彦	泌尿器科
83	Toxicol In Vitro, 26: 872-877, 2012.	Pre-synaptic function explains age-dependent actions of general anesthetics in the rat hippocampal synaptic transmission.	廣田 弘毅	麻酔科
84	Am. J. Physiol. Lung Cell. Mol. Physiol., 303: 130-140, 2012.	Olprinone and colforsin daropate alleviate septic lung inflammation and apoptosis through CREB-independent activation of the Akt pathway.	大石 博史	麻酔科
85	J. Oral Maxillofac. Surg., 70: 2221-2228, 2012.	Clinical application of a hyperdry amniotic membrane on surgical defects of the oral mucosa.	新井直也	歯科口腔外科
86	Int. J. Oncol., 40: 1058-1065, 2012.	Gomisin N enhances TRAIL-induced apoptosis via reactive oxygen species-mediated up-regulation of death receptors 4 and 5.	井上博喜	和漢診療科

87	Dig. Liver Dis., 44: 767-774, 2012.	Spirulina improves non-alcoholic steatohepatitis, visceral fat macrophage aggregation, and serum leptin in a mouse model of metabolic syndrome.	藤本 誠	和漢診療科
88	Evid. Based Complement. Alternat. Med., 2012: Article ID 892697, 2012.	Study of the effects of monacolin K and other constituents of red yeast rice on obesity, insulin-resistance, hyperlipidemia, and nonalcoholic steatohepatitis using a mouse model of metabolic syndrome.	藤本 誠	和漢診療科
89	Neuroepidemiology, 39: 276, 2012.	Concept of Neuroresuscitation and Immediate Stroke Life Support.	奥寺 敬	危機管理(救急・災害)
90	中毒研究, 25: 231-237, 2012.	救急トリアージJTASからみた中毒患者トリアージ.	若杉雅浩	危機管理(救急・災害)
91	救急医学, 36: 1358-1360, 2012.	指標・基準の使い方とエビデンス 総合評価 CTAS/JTAS.	奥寺 敬	危機管理(救急・災害)
92	Ther. Apher. Dial., 16: 159-162, 2012.	Effect of heparin on conformation of the $\beta$ 2-microglobulin molecule.	宇治義則	検査部
93	生物試料分析, 35: 127-132, 2012.	化学発光酵素免疫法を用いたHBs抗原測定の本型慢性肝炎患者での評価.	滝脇正貴	検査部
94	臨床病理, 60: 605-611, 2012.	当院6年間における細菌性感染症の検出菌動向調査-検査室の視点から-	久保田智美	検査部
95	地域救急災害医療研究, 10: 15-22, 2011.	クライストチャーチ地震2011発災直後の現地医療支援活動.	濱田浄司	救急部
96	富山大学医学会誌, 22: 19-24, 2011.	平成23年東日本大震災に対する富山大学の医療支援活動.	若杉雅浩	救急部
97	日本門脈圧亢進症学会雑誌, 18: 40-44, 2012.	脾摘術を施行しインターフェロンを導入したC型肝炎変7症例の検討.	田尻和人	輸血・細胞治療部
98	医学と薬学, 68: 249-252, 2012.	sorafenib 投与後にRFAを施行した進行肝細胞癌の3症例.	田尻和人	輸血・細胞治療部
99	胸部外科, 65: 542-545, 2012.	免疫グロブリンG4関連炎症性肺偽腫瘍.	峠 正義	集中治療部
100	日本小児呼吸器疾患学会雑誌, 23: 21-28, 2012.	肺炎を契機に急性呼吸窮迫症候群に至り、一酸化窒素吸入を導入した3例.	板澤寿子	集中治療部
101	胆道, 25: 727-732, 2012.	von Recklinghausen病に合併した十二指腸乳頭部ノーマスタチノーマと十二指腸GISTの1例.	吉岡伊作	集中治療部
102	富山大学医学会誌, 22: 1-7, 2011.	次世代へつなぐ先進的病院情報システムの研究開発.	中川 肇	経営企画情報部
103	耳鼻臨床補134: 1-7, 2012.	耳鼻咽喉科診療に適した電子カルテシステムの開発に関する研究.	中川 肇	経営企画情報部
104	耳鼻臨床補, 134: 8-13, 2012.	電子カルテと連動した聴覚検査ファインディングシステムの開発~3年間の稼働状況と今後の課題~.	武田精一	経営企画情報部
105	産婦人科の実験, 61: 783-789, 2012.	切迫早産における妊娠36週までの長期tocolysis (maintenance tocolysis) が有効と考えられる症例に関する検討.	米田 哲	周産母子センター
106	日本小児科学会誌, 116: 1554-1557, 2012.	新生児・乳児へのビタミンK予防投与に関する保護者の意識調査.	宮 一志	周産母子センター
107	Cell Reprogram 14: 448-455, 2012. IF:	Stemness of human wharton's jelly mesenchymal cells is maintained by floating cultivation.	樋口 収	周産母子センター
108	Pediatr Allergy Immunol 23: 562-566, 2012. IF: 2.459	Relationship between rhinitis and nocturnal cough in school children.	樋口 収	周産母子センター

109	Epilepsy Res 102: 180-187, 2012. IF :2.290	Decreased susceptibility to seizures induced by pentylentetrazole in serine racemase knockout mice.	田中 朋美	エコチルユニットセンター
110	Scientific World J., 2012: 959824, 2012.	Deficiency in galectin-3 promotes hepatic injury in CDAA diet-induced nonalcoholic fatty liver disease.	野本一博	病理部
111	Diagn. Pathol., 7: 105, 2012.	Laminin-5 is a biomarker of invasiveness in cervical adenocarcinoma.	井村穰二	病理部
112	Clin. Gastroenterol. Hepatol., 10: 24, 2012.	Melanosis ilei.	西川 潤	第三内科
113	Int. J. Hepatol., 2012:403954, 2012.	Pathological features of new animal models for primary biliary cirrhosis.	常山幸一	病理部
114	J. Clin. Neurol., 8: 170-176, 2012.	Transesophageal echocardiographic findings are independent and relevant predictors of ischemic stroke in patients with nonvalvular atrial fibrillation.	高嶋修太郎	神経内科
115	臨床神経, 51: 862, 2012.	脳梗塞再発予防update.	田中耕太郎	神経内科
116	臨床神経, 52: 261, 2012.	けいれん重積発作に対するダントロレンの有効性は本当でしょうか？	高嶋修太郎	神経内科
117	臨床神経, 52: 511-512, 2012.	脳静脈・静脈洞血栓症の脳圧亢進症状に対するグリセロールの適応について.	高嶋修太郎	神経内科
118	BRAIN NERVE, 64: 1341-1345, 2012.	富山県内の精神科医における抗NMDA受容体脳炎の認知度調査.	田口芳治	神経内科
119	Gene, 506: 146-149, 2012.	A de novo interstitial deletion of 8p11.2 including ANK1 identified in a patient with spherocytosis, psychomotor developmental delay, and distinctive facial features.	宮 一志	専門医養成支援センター
120	日本小児科学会誌, 116: 1554-1557, 2012.	新生児・乳児へのビタミンK予防投与に関する保護者の意識調査.	宮 一志	専門医養成支援センター

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 塚田 一博
管理担当者氏名	経営企画情報部長 中川 肇 放射線部長 野口 京 薬剤部長 足立 伊佐雄 看護部長 米道 智子 病院総務グループ長 堰 富美雄 医事グループ長 菊 映子

	保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌, 各科診療日誌, 処方せん, 手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院治療計画書	医事グループ、薬剤部、看護部、放射線部	カルテ等(電子カルテを含む。)の病歴資料は、1患者1ファイル方式による永久一元番号で分類し、外来カルテは最終受診日から8年以上、入院カルテは退院日から10年以上の保存を原則としている。 また、エックス線写真は、1患者1ファイル方式で、最終使用日から8年間の保存を原則としている。 これらは、コンピュータによる集中管理を行っている。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者を明らかにする帳簿	医薬系事務部医薬系総務グループ人事・職員支援チーム	
	高度医療の提供の実績	医事グループ	
	高度医療技術の開発及び評価の実績	病院総務グループ病院総務チーム	
	高度医療の研修の実績	病院総務グループ臨床研修チーム	
	閲覧実績	病院総務グループ病院総務チーム	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事グループ	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事グループ、薬剤部	
	規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	病院総務グループ医療安全支援チーム
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	病院総務グループ医療安全支援チーム		
当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院総務グループ医療安全支援チーム		

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の1第1項各号及び第9条の2第3第1項第1号に掲げる体制の確保状況		
	院内感染のための指針の策定状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	院内感染のための委員会の開催状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	病院総務グループ医療安全支援チーム		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療の提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部 病院総務グループ長 堰 富美雄
閲覧担当者氏名	病院事務部 病院総務グループ 病院総務チーム主幹 藏川 一正
閲覧の求めに応じる場所	病院総務グループ

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

○紹介患者に対する医療の提供の実績

紹介率	77.0%	算定期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
算出根拠	A : 紹介患者の数		9,053人
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		6,171人
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,050人
	D : 初診の患者の数		14,972人

- (注) 1 「紹介率」欄はA、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dはそれぞれの延べ数を記入すること。

## 規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・指針の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院における安全管理に関する基本的考え方</li> <li>2. 医療安全の組織と体制に関する基本的事項</li> <li>3. 安全に係る研修に関する基本方針</li> <li>4. 医療事故発生時の対応に関する基本指針</li> <li>5. 医療従事者と患者等との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>6. 患者等からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>7. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理方針の策定及び推進に関すること。</li> <li>2. インシデントの報告に関すること。</li> <li>3. 医療安全管理の教育及び研修に関すること。</li> <li>4. 医療安全管理対策の検討及び医療安全管理マニュアル作成に関すること。</li> <li>5. 医療の質向上への取り組みに関すること。</li> <li>6. 重大なインシデントに係る調査及び対策に関すること。</li> <li>7. 医療事故対応の意思決定・報告・広報に関すること。</li> <li>8. 医療事故に係る当事者双方の対応に関すること。</li> <li>9. その他医療安全管理に関すること。</li> </ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>インシデント事例検討会、医療安全推進のための特別講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療現場の5Sを実践しよう！(S=整理、整頓、清掃、清潔、習慣)</li> <li>・廣貫堂での「5S」の取り組み</li> <li>・知ってるようで、知らないことから起こるインシデント</li> <li>・あなたの周りを見直しすること何かありませんか？</li> <li>・全員参加での5S活動への取り組み—磐田市立総合病院の活動例から—</li> <li>・人はだれでも間違える。だから、私も間違える・・・かも。—RCA分析より患者誤認対策を考えよう！—</li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・医療機関内における事故報告等の整備</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p>	



- 1 医療安全管理室の専任スタッフが、インシデント報告書を毎日チェックし、事前に3b以上の報告などの重要事例を検証し、医療安全管理室長及び医療安全管理室ミーティングに報告する。必要に応じ、室長が特別事例検討会を開催し、事実確認のうえ、警察への届出及び医療事故調査委員会の是非を検討し、病院長及び医療安全管理委員会に報告する。
- 2 医療安全管理室ミーティングにおいて、インシデント報告のうち、院内全体に関わる内容を中心に、体系的な問題点等を検討し、改善策を医療安全管理委員会の承認を得て、全部署に周知する。
- 3 各部署において、当該部署のセーフティマネージャーが中心となって、事故発生の背景や内容、防止対策について、カンファレンス等でRCAを用いて検討する。
- 4 インシデント事例検討会において、当該期間に発生した事例から2例を選択し、事例の概要説明及び再発防止策を発表後、質疑応答形式でディスカッションを行う。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ( 2 名 )
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ( 1 名 )
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

・所属職員：専任( 2 )名    兼任( 21 )名

・活動の主な内容

1 医療安全管理者の業務

1. インシデントの事例・対策等の情報収集に関すること。
2. インシデントの収集・調査・分析、発生要因の究明及び防止対策に関すること。
3. 医療安全管理に係る病院内の巡視・点検・評価に関すること。
4. セーフティマネージャー会議に関すること。
5. 医療事故情報の管理に関すること。

2 管理室の業務

1. 医療事故防止対策の周知徹底に関すること。
2. 医療安全管理に係る業務改善の提言・指導に関すること。
3. 医療安全管理に係る教育・研修・啓蒙に関すること。
4. 医療安全管理マニュアル遵守の確認と成果の検証に関すること。
5. 医療安全管理委員会への情報提供及び改善策の提案に関すること。
6. 特別事例検討会開催の是非に関すること。
7. インフォームドコンセントの適正運用に関すること。
8. 適正な診療録のあり方の検討及び情報公開への対応に関すること。
9. その他医療の安全に関すること。

⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
-------------------------------------	--

## 院内感染のための体制の確保に係る措置

① 院内感染のための指針の策定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・指針の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院における感染対策に関する基本的な考え方</li> <li>2. 感染対策の組織と体制に関する基本的事項</li> <li>3. 感染対策に係る研修に関する基本方針</li> <li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li> <li>5. 病院感染発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6. 患者等に対する指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>7. その他感染対策の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染予防対策の確立に関すること。</li> <li>2. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。</li> <li>3. 感染予防の啓発及び教育に関すること。</li> <li>4. 感染に係る事故等の疫学調査及び事後措置に関すること。</li> <li>5. 感染予防対策の評価及び改善に関すること。</li> <li>6. 感染予防対策に係る情報の収集に関すること。</li> <li>7. その他感染予防に関すること。</li> </ol>	
③ 従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>院内感染対策講習会</p> <p>・当院の薬剤耐性菌分離状況と抗菌薬使用状況～すべての職員による院内感染対策の取り組みに向けて～</p> <p>・HIV感染者／エイズ患者の現状と血液・体液暴露事故対策</p> <p>・全職員で取り組む感染対策～あなたの参加が大切なのです～</p>	
<p>④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <p>・病院における発生状況の報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染サーベイランスを実施し、データ分析・評価し、感染予防対策の見直しや看護ケアの改善につなげる。</li> <li>2. 院内感染情報レポートを活用し、職員への情報提供を行う。</li> <li>3. 院内ラウンドを通して、感染防止技術に関する確認・指導を行う。</li> <li>4. 感染予防対策に関する他施設との合同カンファレンス又は相互評価を実施し、感染防止技術等に関する情報交換を行い、感染予防対策の質の向上を図る。</li> </ol>	

## 医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 ・活動の主な内容 1. 医薬品の安全使用のために 2. 処方箋作成、発行の厳格化について	年 2 回
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 ・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・業務の主な内容 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項(麻薬等の管理方法等) 3. 患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 6. 他施設(病院等、薬局等)との連携に関する事項	年 1 回
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 ・医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 1 業者からの緊急連絡及び医薬品医療機器情報提供ホームページ等から情報を収集し、必要な医薬品情報を、薬事ニュースの配付及び電子掲示板等で情報提供を行う。 2 副作用による健康被害情報を病院長に報告のうえ、厚生労働省に報告する。	

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 5 7 回
<p>※定期研修1回、新人研修2回、個別研修54</p> <p>・活動の主な内容</p> <p>次の医療機器に関する安全使用のための研修を実施。 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置(AEDを含む。)、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	年 2002 回
<p>・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・保守点検の主な内容</p> <p>使用者がチェックリストに基づく使用前、使用中、使用後の点検を基本とする。更に使用部署若しくは、医療機器管理センターで、器機の使用状況、程度に応じ、使用毎や年1回から4回程度の詳細点検を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>病院総合情報システムの掲示板で、電子化された添付文書等の掲示や、医療安全管理委員会からセーフティマネージャー経由で、電子メールによる通知を行っている。また、不具合等に関する情報は、病院長及び管理者等に報告のうえ、厚生労働省に報告している。</p>	